

指導者

- 1 単元名 自分が読み取ったことを友達に紹介しよう
「イースター島にはなぜ森林がないのか」(説明文)

2 目 標

- 読む目的を明確にし、進んで文章を読んだり友達と互いの読みを確かめたりしようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 文章の中心をとらえ、紹介に必要な内容を考えながら読むことができる。(読む能力)
- 文章の構成をとらえるために必要な接続語のはたらきを理解することができる。(言語についての知識・理解・技能)

3 単元について

(1) 児童の実態

説明文の読み方についての意識調査、説明文を読む力をみる実態調査を行ったところ、7割以上の児童が文章の内容を正確にとらえようと意識して読んでいるが、実態調査では既習の読みの力が十分には定着していないことが分かった。それは、これまでの学習の中で児童が目的を明確にして読んだり、自ら考えながら読んだりすることが十分ではなかったからではないかと考える。そのため、児童の読みは表層的なものにとどまっていたのではないかと考える。

そこで、読む目的を明確にして児童自ら考えながら読んだり、友達とのかかわりの中で自分の読みを確かめたりすることで、文章の内容を的確に押さえて読むために必要な読みの力を身に付けさせたいと考える。

(2) 指導観

本単元の学習では、自分の読みを紹介する言語活動を通して、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて読むことができるようにしたい。そのねらいに迫るために、次の手立てを講じることとする。

① 目的に応じて読むために

本教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」は、その題名からも児童の知的好奇心をかき立てる内容の文章である。児童は、文章を探究的に読み進め、新たな発見や驚きを得ることができるのではないかと考える。そこで、自分が読み取ったことを友達に紹介するという目的を設定することによって、児童が目的を明確にして文章を

説明文の読み方についての意識調査

(平成20. 4. 19実施, 第6学年 組 30人)

- [質問] 説明文を読むときに気を付けていることは何ですか。(複数回答)
- ・段落と段落のつながりをとらえようとして読んでいる児童 ----- 21人
 - ・文章の中心になることばや文をとらえようとして読んでいる児童 ---- 25人

説明文を読む力についての実態調査

(平成20. 4. 22実施, 第6学年 組 30人)

- [平成20年度 学力診断のためのテスト](小六)
- ・指示する語句の内容を読み取ることができた児童 ----- 16人
 - ・文脈に即して適切な語句を選ぶことができた児童 ----- 8人
 - ・文脈に即して内容を読み取ることができた児童 ----- 18人

読むことができるようにしたいと考える。

② 文章の内容を的確に押さえて読むために

ア 異なる読みの視点の設定

本教材は27の形式段落で構成され、児童がこれまで学習した説明文の中で最も長い文章である。しかも、指示語や逆接の接続詞が多用されており、文章の内容を的確に読み取することは容易でないと考えられる。そこで、異なる読みの視点を設けて文章を読み進めることにする。異なる読みの視点（森林が失われたことにかかわりがあるポリネシア人、ラット、モアイ像の三つの視点）を設けることで、児童がそれぞれの立場から文章の内容を紹介するという目的に応じた読みが行えると同時に、読む範囲を限定して内容をとらえやすいようにしたいと考える。

異なる読みの視点を設けた学習の流れは、次の通りである。まず、自分が選んだ視点から森林が失われたこととのかかわりを読み取り、同じ視点を選んだ児童同士で紹介を行う。次に、他の視点が森林が失われたことにどのようにかかわっていたのかを読み取り、同じ視点、異なる視点を選んだ児童同士の順で紹介を行う。その際、教師はワークシートから児童の読みの様子を的確に見取って紹介する相手を意図的に指示したり、紹介を行うポイントを児童個々に示したりし、文章の内容を的確に押さえて読むことができるようにしたいと考える。

イ 段階的な学習過程の設定

小学校学習指導要領解説国語編には、「目的に応じて書物を読む場合、今まで身に付けた能力を生かして筆者の意図や内容を的確に把握する必要がある。」と述べられている。このことから、文章の内容を的確に読み取り、紹介するためには、既習の読みの力である「文章の構成をとらえる力」、「語句と語句のつながりをとらえる力」、「段落と段落のつながりをとらえる力」を生かしながら書かれている内容を正確に読み取り、要約する力が必要だと考える。

そこで、それらの力を育成するために、言語活動との関連を図りながら三段階の学習過程を設け、その中で重点的に指導していきたいと考える。「大体を読む」段階では、文章の大まかな内容をとらえたのち、森林が失われていく様子を読み取って紹介する活動を通して、文章の構成をとらえる力を身に付けられるようにしたいと考える。

「正確に読む」段階では、異なる読みの視点から森林が失われたこととのかかわりを読み取って紹介する活動を通して、語句と語句、段落と段落のつながりをとらえる力を身に付けられるようにしたいと考える。「読み深める」段階では、文章全体から森林が失われた原因を読み取って紹介する活動を通して、文章の中心をとらえて要約する力を身に付けられるようにしたいと考える。

4 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語事項
○ 読む目的を明確にして、進んで文章を読んだり友達と互いの読みを確かめ合ったりしようとしている。	① 書かれている順序や段落のつながりに注意して、文章の構成をとらえている。 ② 文章の中心をとらえ、紹介に必要な内容を考えながら読んでいる。	○ 文章の構成をとらえるために必要な接続語のはたらきを理解している。

5 指導と評価の計画（8時間扱い）

次	時	学 習 活 動 （*指導上の留意点）	具体的評価規準						
一 大 体 を 読 む	1	【単元の学習課題】 文章を読んで、自分が読み取ったことを友達に紹介しよう。 I 文章の大まかな内容を紹介しよう *事前に本文を音読させたり、語句の意味を調べたりさせる。 1 文章を通読し、書かれている内容を発表する *文章の構成をとらえやすくするため、内容を分けて板書する。 2 大まかな内容を紹介する *書かれている内容から文章の構成をとらえる。	ア 文章の内容に興味をもって、進んで文章を読もうとしている。（発言・観察） エ ① 文章が大きく三つのままとまりに分かれていることをとらえている。（紹介）						
	2	II 森林が失われていく様子を読み取って紹介しよう *ワークシートの使い方を確認する。 1 筆者の問いと呼応する段落をとらえる *形式から文章の構成をとらえられるようにする。 2 森林が失われていく様子をワークシートに記入する *時期を表す語句や森林が失われることに関連する語句に着目しながら拾い読みでとらえていくよう助言する。 3 森林が失われていく様子を紹介する	エ ① 筆者の問いと呼応する段落をとらえている。（ワークシート） エ ① 森林が失われていく様子をとらえている。（ワークシート）						
二 正 確 に 読 む	3	III 自分の読みの視点から森林が失われた原因を紹介しよう *読みの視点は、児童の興味・関心に応じて選択させる。 1 森林が失われたこととのかかわりを読み取る <table><tr><td>ラット</td><td>ポリネシア人</td><td>モアイ像</td></tr><tr><td>○大きな災い ○ヤシの木の再生を妨げる</td><td>○大きな原因 ○様々な目的で木を切る</td><td>○巨大な像を運ぶために木が切られる</td></tr></table>	ラット	ポリネシア人	モアイ像	○大きな災い ○ヤシの木の再生を妨げる	○大きな原因 ○様々な目的で木を切る	○巨大な像を運ぶために木が切られる	エ ① 森林が失われた原因を表す語句や文、段落をとらえている。（ワークシート）
	ラット	ポリネシア人	モアイ像						
○大きな災い ○ヤシの木の再生を妨げる	○大きな原因 ○様々な目的で木を切る	○巨大な像を運ぶために木が切られる							
4	2 森林が失われたこととのかかわりを紹介する *同じ視点で読む児童同士で紹介を行い、それぞれの紹介に必要な内容をとらえられているかを互いに確認できるようにする。								
三 読 み 深 め る	5・6・⑦本時	IV 森林が失われた原因を読み取って紹介しよう *自分が選んだ読みの視点から、他の視点が森林が失われたことにどのようにかかわっていたのかを読み取れるようにする。 1 森林が失われた原因を読み取る *森林が失われた原因を表す語句や文、段落を明らかにするよう助言する。 2 紹介メモを作成する *教材文中の語句を用いながら作成させる。 3 森林が失われた原因を紹介する *同じ視点、異なる視点から読む児童同士で、繰り返し紹介を行う。	エ ①、オ 森林が失われた原因を表す語句と語句、段落と段落のつながりをとらえている。（ワークシート） エ ② 自分の読みを紹介するために必要な語句をとらえている。（ワークシート・紹介メモ）						
	8	V イスタ 島にはなぜ森林がないのかを紹介しよう これまで行ってきた紹介の内容を生かしながら、イスタ 島にはなぜ森林がないのかを紹介する。 *全体で場を紹介を行い、それぞれの読みの成長を確かめる。 【学習の振り返り】 自分が読み取ったことを紹介するために、文章の内容を的確に押さえながら読むことができたかどうか。	ア 紹介を通して、自分の読みを確かめたり修正したりしようとしている。（観察・ワークシート）						

6 本時の学習

(1) 目 標

自分の読みを紹介するために、文章中から必要な語句をとらえることができる。

(読む能力)

(2) 準備・資料

ワークシート，紹介メモ，紹介交換カード，国語辞書

(3) 展 開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題をつかむ。 イースター島の森林が失われた原因を友達と紹介し合おう。 2 学習の進め方を確認する。 (1) 紹介の仕方を確認する。 (2) 紹介交換カードの目的と使い方を確認する。 3 紹介メモを基に，読み取ったことを友達と紹介し合う。 相互に読み取ったことを紹介する ↓ 紹介交換カードに記入する ↓ 紹介交換カードを交換する ↓ 自分の読みを確かめたり修正したりする (ワークシート) 4 本時の学習を終えて自分の読みで変化した点を確認する。 5 次時の学習課題を確認する。	・同じ視点，異なる視点から読んでいる友達と互いの読みを紹介し合い，イースター島の森林が失われた原因が何なのかをとらえていくことを確認する。 ・前時の学習から，児童を意図的に指名して紹介の仕方を確認する。 ・紹介交換カードには，互いの紹介した内容についてのアドバイスを書かせ，互いの読みを確かめたり深めたりするために用いる。その際，紹介交換カードに書かれた友達のアドバイスを一方的にとらえるのではなく，本文に戻って確認した上で自分のワークシートを修正するよう伝える。 ・相手の紹介を聞く際には，自分の読みとの違いや同じとした根拠となる語句や文などに着目するよう助言する。 ・読みが十分に進んでいない児童には，個に応じた本時の目標を伝え，読みが徐々に進められるように支援する。 ・紹介交換カードを相手に渡す際に，カードの内容を口頭で補足させることで，自分の読みを深められるようにする。 ・紹介する相手を代えて繰り返し紹介が行えるようにする。 自分の読みを紹介するために必要な語句をとらえることができたか。(ワークシート) ・本時の学習で読みの変容が見られた児童を指名して紹介させる。また，十分に読み取れていない児童には，事後に個別に支援を行う。

木が次しく切り出され、少ふないまいで、なを安さ定ず、目の島に、さによい、さい、末、ざ、ネ、つ、で、め、シ、ひ、が、い、な、に、ま、い、た、自、は、森、つ、れ、か、失、れ、た、結、か、は、平、に、西、チ、

が、次、しく、切、り、出、さ、れ、な、い、ま、い、で、な、を、安、さ、定、ず、目、の、島、に、さ、に、よ、い、さい、末、ざ、ネ、つ、で、め、シ、ひ、が、い、な、に、ま、い、た、自、は、森、つ、れ、か、失、れ、た、結、か、は、平、に、西、チ、

出、さ、れ、な、い、ま、い、で、な、を、安、さ、定、ず、目、の、島、に、さ、に、よ、い、さい、末、ざ、ネ、つ、で、め、シ、ひ、が、い、な、に、ま、い、た、自、は、森、つ、れ、か、失、れ、た、結、か、は、平、に、西、チ、

本 文

チリのイースター島は、首都サンティアゴから西に約三千八百キロメートルの孤島である。島は面積は約百六十平方キロメートルで、香川県の小豆島と同じく小さな島にうかがふ絶海の孤島である。モアイ像で有名なこの小さな島は、無数の火口が残る火山島でもある。

現在、この島に森林はほとんど見られない。しかし、島に残る遺せきの調査と「花粉分せき」の結果、ポリネシア人たちが初めてこの島にお上陸した西暦四〇〇年ごろには、島全体が森林におおわれていたことが明らかになった。

失われてしまったの森は、なぜ、どのようの結果、おおよそ次のように流れていったのか、考えら

れる。失われてしまったの森は、なぜ、どのようの結果、おおよそ次のように流れていったのか、考えら

れる。失われてしまったの森は、なぜ、どのようの結果、おおよそ次のように流れていったのか、考えら

【この順番で読んでいこう】

①森林が失われていく順番が分かることば（年・つなぎことば）に線を引こう！

②森林が失われていく様子が分かることばを線でつなごう！

③自分が読む視点について書かれている段落に印をつけよう！

森林が失われていく様子を読み取って、森林の変化を線で表してみよう！（どんな線になるかな？）

森林の様子

年

●それぞれの視点が、森林が失われたことにどのように関わっていたのかを読み取って、なるべく短くまとめてみよう！（読み取った段落の下に）

（ ）の視点から

＊本文のどこから読み取ったかが分かるように、段落の番号を書こう！